

医療法人名南会 第46回定時総会特集号

第46回 定時社員総会のご案内

法人定款第22条、第25条及び第27条の規定による「医療法人名南会 第46回定時社員総会」を下記のように開催いたしますのでご通知申し上げます。 2011年5月 医療法人名南会 理事長 三宅 隆史

総会日程及び会場

●日時：2011年 **5月29日(日)**

開場・受付開始	午後1時30分
総会議事	午後2時00分～4時00分 (休憩)
総会参加者懇親会 (同会場にて)	午後4時30分～6時00分

※今総会は、記念講演はありません。総会終了後、同会場にて総会参加の皆様の懇親会を企画していますので、総会に引き続いて、ご参加ください。

懇親会では、お食事・お飲み物をご用意させていただきます。お車でのお越しはご遠慮いただき、公共交通機関をご利用ください。

●会場：**名古屋港湾会館・第1会議室**
(地下鉄「名古屋港」駅下車(1番出入口) 徒歩2分)



第430号(部内資料)

発行
医療法人 名南会
名古屋市南区豊田
五丁目15番18号
発行責任者
西本 義弘
☎052-692-2388

年間購読料600円
一部 50円

2010年度諸活動と2011年度活動方針案

2010年度の 特徴的な活動

①各院所の 2010年度の 活動のふりかえり

名南 病院



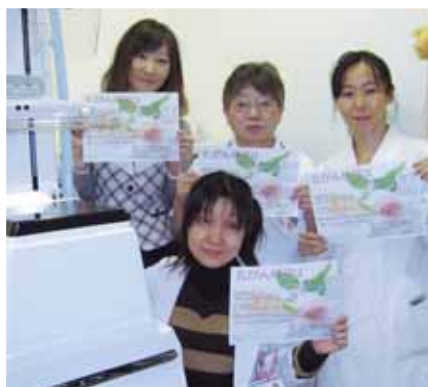
▲胃内視鏡を行う高木万起子医師

●機器の更新、チーム医療の強化で、医療水準の向上

高木万起子医師が中期研修より帰任し内視鏡の受入が拡大し、消化器内科・外科の連携が前進しました。早川モモ医師の初期研修、中島千雄医師の糖尿病中期研修をすすめました。消化器がんへの取り組みは腹腔鏡手術が09年度の約2倍と大きく伸びています。最新鋭のCT装置を導入し、診断精度が大幅に向上、患者さんの負担も軽減されました。呼吸ケアチームの発足、緩和ケアの勉強会開催などNSTを含めチーム医療の取り組みが前進しました。またフットケア担当者が1名増え糖尿病疾患管理がすすんでいます。7月より禁煙外来が始まりました。

●看護師増で、稼働病床の拡大、経営の安定化へ

看護師確保の取り組み強化の成果として、新たに看護師を4月に11名(新卒6名、既卒5名)迎え入れることができ、病床稼働増が可能となりました。6月より稼働病床数を8床増やし128床に拡大、経営改善につながりました。



▲乳がん検診目標達成
(一番前は鈴木り子医師)

●健診件数を大幅に増加させ、早期発見・早期治療に成果

健診活動は収益、件数で大きく前進しました。友の会健診(特定健診)、大腸がん検診、乳がん検診、肺がん検診、胃がん検診、前立腺がん検診で昨年度件数を上回りました。乳がん健診は3年連続で1,000件達成で、1年間で6件のがんが発見されました。

名南 ふれあい 病院

●リハビリ科の部長として家田医師を迎え、病院全体での収益は前年比107.0%に

あたらしい診療報酬への対応を強め、回復期リハビリテーション病棟は前年比116.8%の収益を確保しました。365日のリハビリ提供を開始しました。介護療養型病床では、7名の在宅復帰と7名の看取りを行いました。他職種協働でサービスの質の向上を図り、生活づくりと感染予防対策を強め、病状安定に努力しました。

●外来活動の前進にも努力

協会けんぽ健診を開始、また友の会健診(特定健診)のすすめも積極的に行いました。ものわすれ外来は38件の新規患者を受け入れました。



▲職員で地域訪問

●地域訪問行動を再開

職員自身の名南会協同基金への協力に引き続き努力しました。その結果、患者さんへの呼びかけも強まり、資金協力が広がりました。地域訪問行動を再開し、地域でも協同基金協力を呼びかけました。

● 2頁につづく ●

各院所の2010年度の活動のふりかえり・1頁からのつづき

名南
診療所



名南診療所健康まつり▶

●診療所、居宅支援、通所リハビリ、デイサービス庵ともに「その方らしく在宅で過ごしていける支援」に取り組んでできました。

往診管理件数は増えており、在宅療養支援診療所としての認知が進んでいると考えられます。また、外来では、患者様を増やしていくために、通院患者様の傾向やご意向、ご意見を把握し、接遇や業務の改善点を見出していこうと外来アンケートを実施しました。デイサービス庵は開設から一年経過。通所リハビリでは「きらきらリハビリ通信」を発行、季節の行事は庵、通所リハビリ合同で取り組むなどして活動しています。

また、12月には診療所にて「名南診療所健康まつり」を開催。200名以上のご参加があり、たいへん盛況でした。

中川
診療所



新築移転建設予定地▶

●2010年度は「健診活動の強化」とリニューアルに向けて「地域と共に歩む」を目標として取り組みました。

健診は 650名・大腸がん検診は 700名以上の方が受けられ「早期発見」「早期治療」の意識を高めると共に地域の方の健康管理に役立てることができました。友の会役員と共同で行う訪問行動も活発になり、年間目標の 36回も達成し、世話人も増え訪問にての対話の大切さを再認識しました。昨年度からの始めた健康講座も 2回開催し多くの参加がありました。外来行動として「介護なんでも相談」を毎週開催し、気軽に相談できる窓口として定着してきました。

リニューアルに向けては 9月～ 2月の約半年に渡り建設委員会を定期開催し、友の会役員と共に討議を重ね、地域に根ざした医療・介護の発展に希望を持ち、成功を目指します。

名南介護老人
保健施設
かたらいの里



毎日の日課、朝のリハビリ体操▶

●認知症ケアについて質を高める努力～認知症ケアチーム立ち上げ

かたらいの里では入所者様の気持ちにより添うケアの実践や昨年に引き続き認知症ケアについて質を高めるよう努力してきました。今年度は終末期を老健で希望される入所者様、ご家族様が increase、その気持ちに応えるべくターミナルケアに注力し、利用者様には最期まで自分らしく過ごして頂けるように努力してきました。認知症専門棟ではなじみの関係の強化をし、認知症の入所者様が安心して療養できるようにしてきました。また、名南ふれあい病院、きずなの職員とともに認知症ケアチームを立ち上げ、認知症のケア・リハビリを学習し、実践してきました。今後も地域の要求に応えられるようにケアやリハビリの技術の向上をすることで質の高いサービスの提供を実現したいと思います。認知症ケアを充実させることは要介護者の人権を守るケアの追求となり、それはすべてのケアの質の向上に繋がるため力を入れていきます。

通所リハビリでは介護予防の取り組みで、利用者様が日常生活に必要な心身の状態を維持できてきたと思います。介護予防は利用者様が「生活の質」を損なわないためにも必要な対策と考え、今後も継続してリハビリテーションの強化をし、住み慣れた地域での生活を支援していききたいと思います。

名南在宅
総合センター
きずな



- ①利用者様、ご家族の生活や人権を尊重し、在宅生活支援の活動をおこないました。
- ②日常の在宅生活支援のなかで、医療機関、施設、事業所、いきいき支援センター等との連携に努めました。
- ③3事業所（訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所）ともに情報の共有、サービスの質の向上が図られるよう定期的な会議の実施、学習会、外部研修会へ参加しました。

② わたしたちは、
「あらゆる活動を共同組織」
とともにすすめます。

「地域の健康づくり」の運動は事業所と共同組織が一体となって
すすめる最も重要なとりくみ。「1万人の大腸がん検診運動」
「1千人の乳がん検診運動」のとりくみも、大きく前進しました。

●大腸がん検診、乳がん検診に加え、特定健診(社員・友の会健診)、胃がん検診、前立腺がん検診を重点にとりくみました。友の会の各地域支部、各事業所と合同の「名南会健診委員会」を中心にしたとりくみは3年目を迎え、班会学習、外来行動や地域訪問行動など、地域にひろげる健診運動として今年度も大きく前進しました。大腸がん検診はほぼ前年実績を確保し、乳がん検診は3年連続で1000件を超過しました。

大腸がん検診についてみんなで学習し、
「みんなで受け、まわりにひろげよう」
と瑞穂・苗代班



2010年度、「1億円資金運動」に多くの
社員・友の会員の方にご協力をいただき、
8,600万円の資金が集まりました。

●“名南会協同基金は、差額ベッドのない病院・よりよい病院、施設を支える大切な力”と職員、共同組織の共同で、外来や病棟での訴え・地域訪問行動などにとりくみました。今年度は、「楽しく資金参加・こつこつ貯める」と積立通帳づくりを重点にひろげました。結果1年間で107名の協力者が増え、現在342名の方が「積立通帳」にご協力いただいています。



「協同基金積立は安心の貯金」と班会で
みんなで協力(呼統・ひまわり班)



友の会役員と職員で地域を訪問し
協同基金協力を訴え

平和、くらしを守るとりくみ
～みんなで学んでみんなで行動～

●私たちが何よりも「いのち」を大切に
し、「貧困」など困難が広がる地域に
寄り添い、誰もが医療を受ける権利
(生存権・受療権)を守ります。くらし
と景気を反映して国民健康保険を
めぐる深刻な事態が進行しています。
「(名古屋市)国保改善署名」を中心
に取り組みをすすめました。
また、「南区国保料などの減免をすす
める会」に参加し、7月には南区役所
に対して保険料減免の集団申請と交
渉を行いました。



7月に、国保・介護保険料減免を
求めて南区役所と交渉

●平和憲法を守る取り組みは、いのちを
守る活動をしている私たちの最も重
要な取り組みです。今年も6月平和行
進と8月原水禁世界大会、3月ビキニ
デーなどに多くの青年職員を派遣し
ました。また、5月「ニューヨーク・
NPT再検討会議」には2名の法人代
表を派遣しました。



ニューヨークの街をパレードして
アピールする早川モモ医師



6月平和行進に参加した名南会職員・友の会員

2010年原水禁世界大会(広島)に
青年職員5名で参加しました



友の会班会は、地域の楽しい交流、
仲間づくり、友の会の活動拠点づくり。
新しい班が5つ誕生しました。

●各地域で班づくりに目標をもってとりくみました。特に、まだ班がない地域
での班づくりのため、その地域での懇談会を企画するなどの取り組みにより、
今年度5つの班が新たに活動をはじめました。(囲碁教室班、ちぎり絵
教室班、昭和区健康サロン
班、豊田班、鳴丘班)



新しい班会のようす



班ができるまで
2回の地域懇談会を
開催した豊田地域

楽しい友の会全体企画、地域での行事などでは、
職員、共同組織相互の親睦が深められました。
また、地域との結びつきが強まり、地域の仲間
づくりの輪がひろがり、まちづくりにも生かされ
ました。1年間で982名の友の会員が増えました。

健康友の会毎年恒例、
大須演芸場初笑いは、
140名で満席



名南健康友の会秋の行楽は、
「三ヶ日みかん狩り・本宮の湯」
(73名参加)

数年ぶりに企画された
中川健康友の会行楽・11月
「みかわ温泉・海遊亭」に32名参加



医療法人名南会2011年度方針（案）

3月11日に東日本大震災が発生しました。被災された全ての皆さんにお見舞い申し上げます。同時に、亡くなられた方々に心から哀悼の意を表します。今回の東日本大震災は、被害の甚大さ、広大さ、さらに福島第一原発事故など、かつて経験したことのないものです。この支援は、国、地方自治体、医療・福祉施設などあらゆる組織が緊密に連携をとりながらすすめる必要があります。この取り組みは、「いのちの平等」をうたう民医連綱領の実践そのものです。私たちは全日本民医連に結集し総力をあげてこの支援にあたる決意を表明します。

東日本大震災を乗り越え、国民の命が大事にされる日本、誰もが人間らしく生きることができる新しい日本をつくることが求められています。しかし、民主党政権がすすめている政治は、自民・公明政権を上回る「アメリカ第一、財界第一」路線の強化となっています。社会保障改革検討本部をつくり「社会保障と税の一体改革」の検討を行っています。その中では、今後の社会保障財源は「消費税を柱とする」とのべ、首相は実現のために「政治生命を賭ける」とまで言いました。後期高齢者医療制度に代わる新しい高齢者医療制度案と介護保険見直し法案では、保険料引き上げと給付を切り下げ、医療・介護に対する国の責任を大幅に縮小させようとしています。いまほど「権利としての社会保障」が求められることはありません。

県民生活は深刻さを増しています。生活保護世帯は、08年度平均では34978世帯だったのが、09年10月では44456世帯、10年10月には52178世帯になりました。国民健康保険の滞納世帯は、10年6月では約23万4千世帯に達し、加入者の2割を超えました。高すぎる保険料が払えず、医療から排除される方、無保険の方などが増えています。愛知県は「財政力は全国2位なのに民生費は全国最低クラス」です。人口10万人当たり医師数も全国36位、看護師数も41位、老人ホーム数も45位という最低クラスです。名古屋市でも、市立病院の民間譲渡や指定管理者制度導入、市立保育園の民営化などが行われています。国民健康保険料の相次ぐ値上げで、17政令市で14位（07年度）だった平均保険料が5位（09年度）となりました。

医療法人名南会は、地域の困難に寄り添い、健康友の会の強化に努め、専門職の確保・育成で事業を前進させてきました。医療経営をめくり困難な状況は続いています。全日本民医連に結集し全国の経験に学びつつ、協同の取り組みを強めていきます。



2011年度の重点課題方針

① 名南会の特徴を活かし、各事業所の機能・役割を高める

名南病院は、急性期・亜急性期病床としての入院機能を高め、糖尿病をはじめ生活習慣病の療養支援、消化器・乳ガンなどの内科と外科の連携、高齢者の急性期対応などの機能をさらに向上させていきます。名南ふれあい病院・老健かたらいの里は、リハビリ機能を高め在宅支援を強めていきます。診療所や在宅総合センターきすなでは、地域での健康管理や在宅療養支援の取り組みをすすめます。

③ 第6次長期計画の検討をすすめ、次代の名南会を展望する

11年度で第5次中期計画が終了し、12年度から5年間の第6次長期計画の検討が始まりました。必要な人材の育成、健康友の会の強化・発展をすすめ、新たな事業展開を検討していきます。その長期計画を推進していく安定的な財務・経営を計画していきます。また、中川診療所が11月に移転新築オープンを計画しています。中川地域での事業拡大を展望していきます。

⑤ 支部化など組織整備をすすめ、健康友の会の強化をはかる

医療法人名南会は、健康友の会との協同の前進なくして、医療・介護活動も経営活動も前進させることはできません。地域で、連帯し助け合う組織として、平和・憲法を守りまちづくりをすすめる医療・福祉住民運動として、事業所を守り発展させる共同組織として、健康友の会を2万人を展望し拡大・強化します。健診など健康づくり運動、1億円を目標にした地域資金募集運動に取り組みます。

② 「地域と共に歩む人間性豊かな専門職」の育成をすすめる

地域の期待に応えるためにも、中長期的な展望からも、医師・看護師をはじめ職員の確保と育成が不可欠であり、引き続き法人の最重要のテーマです。医師研修、新人看護職員研修を法人・院所をあげて成功させ、様々な資格取得を含めた育ちあう研修制度の整備をはかっていきます。全日本民医連綱領の学習運動を全職場で行い、働き続けられる魅力ある職場づくりをすすめます。

④ 全役職員による経営改善をはかり、安定した経営をめざす

事業所管理会議での集団的な検討をもとに、職場ごとの課題・目標を設定し、毎月の予算達成をめざします。全職員での経営状況の共有と職責者の役割が決定的です。資金管理が重要な課題となっています。事業キャッシュフローの増大と健康友の会に依拠した資金結集が欠かせません。新しい経理システムを活用し、本部事務局と事業所が連携した経営管理を強めていきます。

⑥ 全日本民医連に結集し、東日本大震災への支援活動を継続する

全日本民医連綱領学習を継続的に工夫をこらして取り組み、「無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織」として実践をすすめていきます。東日本大震災に対し、継続して医療と介護の中長期的な人的支援が要請されています。義捐金の活動とともに、被災者支援に組織として全力をあげていきます。また、原水禁世界大会や辺野古支援連帯行動など平和の取り組みを強めます。